

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名

山 形 県

学校の概要

学校名	朝日町立宮宿小学校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	14
児童数	30	20	24	31	28	34	2	169	

研究の概要

1. 研究主題

自分の思いを喜んで伝え合う子ども ～学力の向上を求めながら～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

学校生活の中心は、日々の授業である。そこで、国語科を「伝え合う力」を育てる中心に位置づけ、国語科から他教科へ、全教育活動へと広げていく。

なお授業研究会では、以下の教科を取り上げた。

- ・ 1年生 国語
「話す・聞く」を中心とした「伝え合う力」の基礎づくり
- ・ 2年生 国語，生活
体験活動を通した「伝え合う力」を育てる多様な場づくり
- ・ 3年生 算数，道徳
具体物や数値を用い，筋道を立てた「伝え合う力」の場づくり
- ・ 4年生 国語，総合的な学習の時間
家庭・地域との連携を生かした国語力の向上
- ・ 5年生 国語，総合的な学習の時間
国語と「総合」との関連を生かした多様な言語活動の場づくり
- ・ 6年生 社会
国語力を生かし，歴史上の人物の生き方を考える場づくり

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	テーマ
	自分と友達の思いを共感的に受け止め，相手を尊重する心と心のコミュニケーションまで高め合うためには，伝え合う力の育成が重要であると考えた。そこで「伝え合う力」を学力向上の核と位置づけて，研究を深めた。
	研究の見通し（仮説）
	仮説1 日々の生活において 豊かな体験や基礎的な力を身につければ 自分なりの思いや考えを持つことができるだろう。
	仮説2 思いを伝え合う場において 方法や学習形態を工夫すれば のびのびと交流できるだろう
	仮説3 ふり返りの場において よさや伸びを認め合えば 学びあう楽しさを実感し意欲がふくらむだろう
	仮説4 家庭や地域において 人や自然とたっぴり関われば 前向きな心が育ち感性が豊かになるだろう

	<p>研究の内容・方法</p> <p>(1) めざす子ども像を『笑顔あふれる楽しい生活』と位置づけ，学力を支える楽しさを明確にすること</p> <p>(2) 伝え合う力を核に授業改善を図り，学年ごと育てる力の系統を明確にすること</p> <p>(3) 評価規準に照らした指導の手立てを工夫すること</p> <p>(4) 学力の育つ場である家庭・学校・地域の連携を具体化すること</p>
平成16年度	<p>テーマ 平成15年度と同様</p> <p>研究の見通し(仮説) 平成15年度と同様</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>教科を貫く国語力を育て，伝える力をより高めた授業改善を図る。ならびに家庭・学校・地域の連携をより深め，学力を支える「体験」「自立」「学び」を推進すること。</p>

(3) 研究推進体制

簡易な組織のよさを生かし，互いに連携を図り機能させることを重視した。		
研究推進委員会 (研究の立案等)	- 研究全体会	<p>下学年ブロック(授業の検討等)</p> <p>上学年ブロック(授業の検討等)</p>

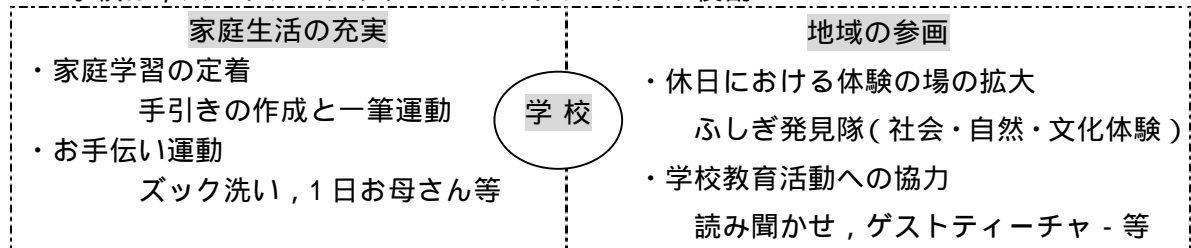
平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<p>(1) 学力を支える3つの楽しさ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>「体験」が楽しい</p> <p>協力，自然・社会体験， 手伝い等</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>「学び」が楽しい</p> <p>伝え合い，不思議や疑問， わかる・できる</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>「自立」が楽しい</p> <p>思いやる，ルール尊重， めあてと努力</p> </div> </div> <p>(2) 授業研究</p> <p>地域・保護者の連携を生かした教材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4学年の例：保育園との交流経験を生かす読み聞かせ <p>伝え合う力を育てる系統表の作成と言語活動の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」を軸に2学年分をまとめた系統表の作成 ・共感的な温かい雰囲気を経験にした言語活動の例：Show & Tell，インタビュー，ポスターセッション，スピーチ，自由起立発言等 <p>未定着の事項と原因の分析による育てたい力の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案への明記(2 子どもの思いや教師の願い) <p>評価規準に照らした指導の手立ての具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きる評価のための支援計画の立案と実践 <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">単元の評価規準</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">単元構成と指導・評価の計画</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本時評価規準にそった支援</div> </div> <p>一人一人に応じたきめ細かな指導と少人数指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導を軸に，TT，習熟度別，等質分割，課題選択別等の指導 ・計算領域に限定したPOWER学習の実施と事後指導の場(さくらルーム)の設置 <p>カードを活用したふり返りの場の重視，指導と評価の一体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふり返しカード(レーダーチャート，ステップアップ表)を用いた指導と評価の一体化 ・よさと伸びを認め合い意欲を持たせる場の設定
--

(3)家庭・学校・地域との連携

学校は、パートナーシップのコーディネーターの役割



(4)平成 14 年度と平成 15 年度との比較

学びに関するアンケートから

ア：学校で勉強するのが楽しいですか。 はい 54% 63%

イ：自分の勉強の態度はよいと思いますか。 はい 42% 55%

NRT学力テスト(教研式全国標準診断的学力検査)から

国語 偏差値 51.3 53.1 算数 偏差値 51.7 53.1

2. 今後の課題

- (1) 育てたい力をより明確にした単元指導計画の立案と授業実践をすること
- (2) 教科を貫く国語力を育て、伝える力をより高めた教材開発と評価方法を研究すること
- (3) 家庭・学校・地域の連携をより深め、体験を重視した学びを進めること

学力等把握のための学校としての取組

- (1) NRT学力テスト 4 月中旬実施, CRTテスト 2 月初旬実施
- (2) 学びに関する意識調査(アンケートによる実施, 6 月, 12 月頃実施)

フロンティスクールとしての研究成果の普及

- * 公開授業研究会, 講演会の実施 日時: 平成 15 年 10 月 7 日(火) 会場: 本校, 創遊館
300 名の参加者(教員, 保護者等), 講師: 井上一郎氏(文科省調査官)
研究パンフレットの作成配布(公開研究会参加者, 全保護者等)
- * 家庭学習を考える PTA 集会の実施 日時: 平成 15 年 11 月 26 日(水) 保護者対象
内容: 児童の学習ノートを活用した一筆運動の啓蒙
- * 読書好きな親子をめざす講演会の実施 日時: 平成 16 年 2 月 20 日(金) 保護者対象
講師: 最上一平氏(朝日町出身 童話作家)
- * 16 年度の公開授業研究会...平成 16 年 10 月 7 日(木) 開催予定

次の項目ごとに, 該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15 年度からの新規校	14 年度からの継続校		
【学校規模】	6 学級以下	7 ~ 12 学級		
	13 ~ 18 学級	19 ~ 24 学級		
	25 学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・T による指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		